

横瀬町「まち・ひと・しごとの駅
(官民連携プラットフォーム)」構築事業
—No.52 横瀬町—

【事業の内容】

人口減少を抑制し、より住みよい町、より誇れる町をつくるため、地方創生加速化交付金を活用し、横瀬町「まち・ひと・しごとの駅（官民連携プラットフォーム）」を構築します。

横瀬町「まち・ひと・しごとの駅（官民連携プラットフォーム）」では、従来の総花的に情報を発信する自治体サイトではなく、新たな活動を始めたいと考えている企業、NPO、研究機関、個人等に的を絞った WEB サイトを作成し、ビジネス・政策等のアイデアを広く募集し、住民や地域内の企業・公共機関等に対してその提案を適切につなげ、「しごと」を創出するためのプラットフォームを構築します。

【事業年度】

平成 28 年度～

【予算額(千円)】

27,915千円

【財源】

地方創生加速化交付金（国）

【事業実施に至った背景・経緯】

横瀬町では若年層の流出、少子化に伴う人口減少が続いているが、鉄道駅を有し、都心から 80 分程度と通勤も可能なエリアにあることで、秩父地域にあっては、東京圏からひと、しごと、情報などを呼び込む東の玄関口として機能することが求められています。町の人口規模 8,600 人程度と小規模ながら、町民体育祭延べ参加者約 2,700 人、高齢者見守りイベント参加者 145 人、自

主防災組織の設置率 100%（行政区数：23 区）など、住民の地域への参加意識が非常に高いことが特徴的な町と言えます。

町としても、また、秩父地域全体でも、ちちぶ定住自立圏構想の中で広域的に連携して企業誘致や若年層の定住・移住促進に取り組んでいるが、町や地域を活性化していくには、外からの企業等の力やアイデアを集め、それらと「ひと」をつなぎ、新たな事業や取組を行っていくことが非常に重要です。

多くの人に横瀬町の魅力を知ってもらい、また訪れてもらうことにより交流人口の拡大が図られ、町や地域の更なる活性化が可能になると考えています。

【事業のPRポイント】

横瀬町は、都心から近いという立地条件（事業や研究開発を行う際の移動にかかる時間とコスト抑制が可能）、恵まれた自然環境と利用可能な施設（快適な事業フィールド提供可能）、小さなサイズ（小回りがきく、意思決定が早い）、参加意識の高い住民の存在、と新しい事業や研究開発を始めるための好条件がそろそろ希少な町と思っています。横瀬町には新しい取組に参入できるチャンスがあることを「まち・ひと・しごとの駅」を通じ積極的に発信、アピールし、全国から広くアイデア・提案を集めます。

公共領域のビジネスや、シェアリングエコノミー等の分野での新規事業は、行政と提携することで、実験的に行われることも多いが、民間企業へのヒアリング等から、「新事業の研究開発をしたいが、全国で 1,700 余りもある自治体の中から協力してもらえる自治体を探すのに非常にコストと労力がかかってしまう」という意見を持つ企業等は非常に多いと言えます。そのようなアイデアをもった企業等に他の自治体ではなく、横瀬町をパートナーとして選んでもらい、シェアリングエコノミーや公共領域等の新規事業を積極的に呼び込み、人の流れを生み出し、新たな雇用を創出することで若者の転出抑制につなげて行きます。

〔 連絡先 〕

まち経営課 政策・秘書・広報グループ 0494(25)0112